第二十四講・花を食べる

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

湯飲み茶わんに、あわいピンクの八重桜の花がういている。桜湯である。めでたいことがあるときに、お茶の代わりに飲むとされているが、きみたちは飲んだことがあるだろうか。また、魚のさしみをもった皿に、小さなきくの花が置いてあることがある。これを食べたことがあるだろうか。あんなもの食べられるのかと思った人もいるだろう。あんなものどころか、そこには、日本人のちえがかくされているのである。そのちえとはどんなものかさぐってみよう。

日本は、年間を通して花が絶えることはない。その花の多くを、日本人は昔から、実に上手に食べてきた。どんな花を食べたかというと、桜やきくはもちろん、たんぽぽ、すみれ、つばき、ぼたんの花まで食べたのである。

きみたちのなかには、たんぽぽなら食べたという経験の持ち主がいるかもしれない。その人は、きっと山菜や薬草にくわしい人が身近にいて、たんぽぽを使った料理をしてくれたのにちがいない。①たんぽぽの料理には、花びらとエビのすみそあえ、花のてんぷらなどがある。また、わかい葉を使ったたんぽぽサラダや、根を使ったかきあげ、きんぴらがある。おどろくことに、たんぽぽご飯やたんぽぽコーヒーもある。これらは、根を細かくきざんだものを使う。

たんぽぽの花のてんぷらは、つんだばかりの花のうら側に、うすい衣をつけて、油であげる。てんぷらにすると、花の苦みもうすくなっておいしい。花

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を食べるといっても、わたしたちは、食べやすいようにいっそうのくふうをしているのである。これは、食べ方の[A]である。

では、花を食べることには、どんな意味があるのだろうか。

食べた花を調べてみると、花粉やみつには、リンや鉄、カルシウムのようなミネラル類や、ビタミン類が豊富にふくまれている。このため、花を食べることは、昔のそまつな生活のなかにあって、きちょうな栄養分をとる一つの方法になっていたことがわかる。

そればかりではない。花を食べることを通して、日本人は、食べられる花と毒の花、うまい花とまずい花、体のためによい花と食べ過ぎるとよくない花などを、正確に区別してきた。

そして、区別とともに、②それぞれの花に合う使い道を考えてきたのである。

まず第一は、薬として使う。ももの花やつぼみは、にょうがよく出るように。こぶしの花は、鼻の病気などを治すために。ふきのとうは、胃をじょうぶにするために、また、せきをしずめるために。

第二は、味として使う。つつじやさつきの花びらのすっぱい味。ふきのとうや菜の花の苦い味。花さんしょうのからい味。桜花や梅のつぼみのしぶい味など。

第三は、においとして使う。きく、桜、ゆず、しその花など、自然のかおりを楽しむ。

第四は、見た目を喜ばせるために使う。桜やももの花を湯にうかせて、その花ごと飲んだり、花びらの小さい花々を料理にそえたりする。

実に豊かな使い方、味わい方だと言うことができよう。

現代のわたしたちが食べる花は、桜やきくのような伝統的なものばかりではない。たとえば、ニセアカシアの花をすすめる人は、あまくてみりょく的なかおりと味を、年に一度は楽しみたいと言っている。てんぷらにしたり、バターいためにしたり、また、花をしごいて熱湯をかけ、サラダにしたりして食べ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ているそうである。

　このように、花を食べる日本の伝統的なちえは、今日にも受けつがれ、さらに発展させられてもいる。むろん、③世界のどの国も、それぞれにすぐれた食文化をもっている。多くの花をいろいろな形で味わい、楽しむことは、日本人の育ててきたすぐれた食文化の一つである。それは、これからも生かしていくことが望まれるものである。

〈小泉武夫「花を食べる」より〉

---

(1) ——線①「たんぽぽの料理」として筆者が挙げているものを次の中から全部選び、記号で答えなさい。

ア 花のてんぷら　**イ** 葉のコーヒー

ウ 根のかきあげ　**エ** 葉のサラダ

オ 根のすみそあえ

(2) [A]にあてはまる言葉を、文中から平仮名二字でぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) 花を食べることは、栄養面ではどんな意味がありますか。次の文の［　］a・bにあてはまる言葉を文中からそれぞれぬき出しなさい。

花には、リンや鉄、カルシウムなどの［a］や［b］が豊富にふくまれており、昔から人々のきちょうな栄養分となっていた。

a［　　　　］
b［　　　　］

(4) ――線②「それぞれの花に合う使い道」として正しいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　桜やさつきの花は、見た目を喜ばせるために使う。
イ　つつじや花さんしょうは、すっぱい味として使う。
ウ　ふきのとうは、せきをしずめるための薬として使う。
エ　梅やしその花は、自然のかおりを楽しむために使う。

［　　］

(5) ――線③「世界のどの国も、それぞれにすぐれた食文化をもっている」とありますが、筆者が述べている日本のすぐれた食文化とは、どのようなことですか。文中から二十字前後でぬき出しなさい。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］20

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講・確認テスト

次の熟語の組み立てとして正しいものを、あとからそれぞれ選びなさい。

1　通行
2　開会
3　青空
4　前後
5　乗馬

ア　似た意味の漢字を組み合わせたもの
イ　反対の意味の漢字を組み合わせたもの
ウ　上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの
エ　動作を表す漢字の下に「〜を」「〜に」という目的を表す漢字が来るもの

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講　花を食べる

一題目

(1) ア・ウ・エ（順不同）
(2) ちえ
(3) ａミネラル類
　ｂビタミン類
(4) ウ
(5) 多くの花をいろいろな形で味わい、楽しむこと

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　エ　３　ウ　４　イ　５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。